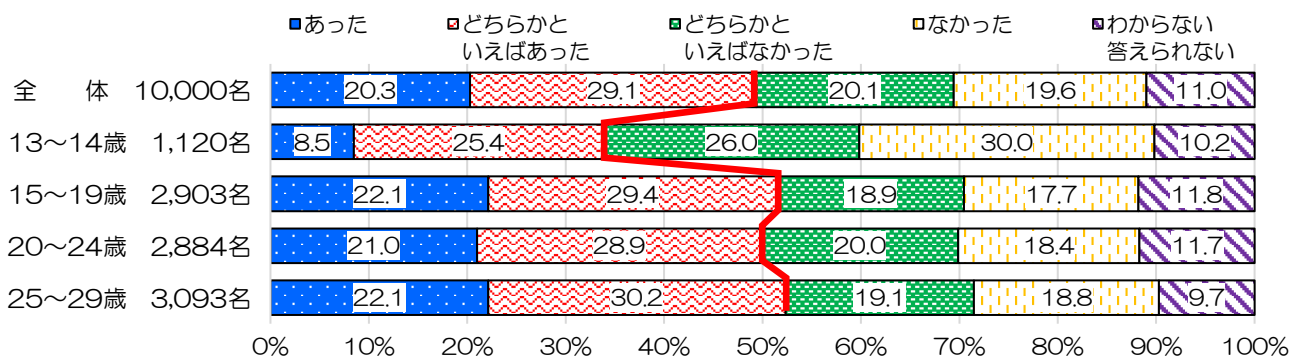


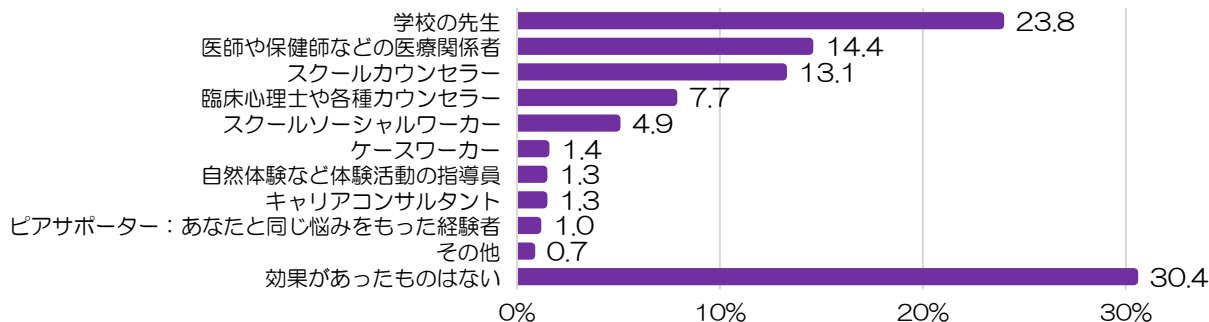


## ★13歳から29歳のうち社会生活・日常生活を円滑に送ることができなかった経験がある者は49.4%であった。

### 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験[図1]



### 支援を受けて役に立ったと思う人(全体13~29歳)[図2]



【出典】内閣府政策統括官(共生社会政策担当)「子供・若者の意識に関する調査(令和元年度)」(2019)、図1 p22、図2 p32  
 【調査概要】対象：13~29歳までの男女、回収数 11,178、有効回答数 10,982、有効回答率 98.2%、標本数 10,000  
 期間：2009年11月1日~12月2日



社会生活・日常生活を円滑に送ることができなかった経験がある者は49.4%と、約半数の人が当てはまりました。このような状況を踏まえ、円滑な生活を送れずに悩んでいる人や、その家族に対するアドバイスをお願いします。

### 【風をよむ】

- 悩んでいる方へ：他に選択肢が無くて不登校になったり退職したりする前に、いったん逃げましょう！逃げるのは悪い事ではないです。逃げ方さえ覚えれば、周りも応援してくれる形で、苦しい状況から一時避難することが出来ます。その知恵をもらうのが、相談かもしれませんね。
- ご家族へ：子供さんが苦しい姿を見るのは、身が引き裂かれる思いではないでしょうか。そのような時は、穏やかな日常を一緒に過ごすことがお勧めです。思春期以降、親が教えられるのは子供が望んだ時だと思います。穏やかな日常を過ごしていると、これまでと違う話し合いができるかもしれません。見守る期間は、まずは3か月~半年程度をお勧めします。

(【風をよむ】担当 長崎県子ども若者総合相談センター センター長 宮本)

☆直接メール配信も行っていますので、必要な方は下記アドレスへ連絡ください。  
 ☆可能であれば、本用紙を印刷し子供たちへ配布していただければと思います。  
 ☆ぜひ御意見・御感想を送っていただければと思います。

 **長崎県立対馬青年の家**  
 TEL : 0920-83-0559  
 E-mail : tsushima1186@sea.tocctv.ne.jp

【対馬青年の家 Facebook】  
過去の資料も閲覧可能です。  
「いね」をお願いします。

